

2017年第11回 OPI 国際シンポジウム(台湾大会)議程

主題 双方向教育における教師と学生のあり方

(雙向互動教學中教師與學生所扮演的角色)

主催者:淡江大学日本語文学科

場所:淡江大学淡水校園驚聲国際会議場(新北市淡水區英專路 151 号)

時間:2017年8月4日・5日(金 土曜日)

一日目 2017年8月4日(金曜日)	
08:20-	開場 受付
08:50-09:10	<p>驚声国際会議場(驚声ビル3階)</p> <p>開幕式 開会の辞 司会者 王 天保(淡江大学助理教授)</p> <p>張 家宜(淡江大学学長)</p> <p>嶋田 和子(2017年第11次 OPI 国際シンポジウム台湾大会顧問)</p> <p>塩沢 雅代(日本台湾交流協会文化室主任)</p>
09:10-10:10	<p>驚声国際会議場(驚声ビル3階)</p> <p>基調講演 1</p> <p>司会者 曾 秋桂(淡江大学教授兼学科主任 村上春樹研究センター長 2017年第11次 OPI 国際シンポジウム台湾大会実行委員長)</p> <p>講演者:佐藤 学(学習院大学教授)</p> <p>テーマ 学びの共同体における学びの再定義と日本語教育</p>
10:10-10:30	ティータイム
10:30-11:30	<p>驚声国際会議場(驚声ビル3階)</p> <p>基調講演 2</p> <p>司会者 潘 慧玲(淡江大学教授兼学習與教学中心執行長)</p> <p>講演者 張 輝誠(台湾中山女子高級中学教師・「学 思 達」創立者)</p> <p>テーマ 學思達隨時開放教室, 讓世界走進來</p>
11:30-12:20	<p>驚声国際会議場(驚声ビル3階)</p> <p>世紀大対談</p> <p>司会者 張 鈿富(淡江大学教授兼教育学部学部長)</p> <p>対談者 佐藤 学教授 張 輝誠博士 潘 慧玲教授</p>
12:20-13:30	昼食(驚声国際会議場内)とポスター発表(驚声国際会議場2階にて)が同時進行
12:20-13:30	<p>ポスター発表</p> <p>① 池田 隆介(北九州市立大学教授) 学術文章執筆能力の向上に貢献するルーブリック式レポート評価表 —日本人大学生のレポート自己評価、及び、ピアレビューを通じて—</p> <p>② 伊勢 みゆき(新宿日本語学校) 日本人との「つながり」の中でのみ日本語の会話は上達するか —日本語学校におけるカリキュラムと会話能力の関係を探る—</p> <p>③ 虞 安寿美 釜淵 優子(中國文化大学推廣教育部兼任講師 YUMA Teaching Japanese Firm 台湾代表 関西学院大学非常勤講師)</p>

	<p>ビジネス場面で本当に求められる発話能力を考える —面接時の自己PRなどを題材にして—</p> <p>④ 大津 友美（東京外国語大学准教授） 会話に参加するための能力を考える授業 —第二言語話者が参加する会話の分析を通して—</p> <p>⑤ 黄 聖文 黄 鴻銘 林 明萱 李 姿蓉（銘伝大学非常勤講師 銘伝大学修士課程） 台湾の A1 レベル日本語学習の日本語使用場面に関する一考察 —高校における日本語クラス履修者を対象に—</p> <p>⑥ 坂井 菜緒（武蔵大学非常勤講師） 初級日本語クラスにおけるビジターセッションの意義とは —日本語学習者とビジターの学びの考察—</p> <p>⑦ 田邊 充博（桜花日語学園） 参加者が「対話」によって創る教室活動とは —ある初級日本語教室の実践から見—</p> <p>⑧ 中谷 規子（ICT ビジネスジャパニーズ講師） 日本語学習者の語サーチ</p> <p>⑨ 持田 祐美子 濱畑 静香 永田 由紀（平沢大学助教授 皇学館大学助教 高麗大学大学院博士課程） 「どう どんな質問」による効果的な発話抽出の一考察 —OPI テスター訓練生のインタビューデータをもとに—</p>		
パネル1 プロフィシエンシーの視点からみた世界の日本教育現場			
	驚声国際会議場(驚声ビル3階)		
13:30-14:10	<p>プロフィシエンシーの視点からみた世界の日本教育現場 司会者 頼 振南(輔仁大学教授兼学部長 台湾日本語文学会理事長 国際医療翻訳協会理事長) 韓国代表 川口 慶子(崇実大学招聘教授) 香港代表 上田 早苗(香港中文大学高級講師) ブラジル代表 向井 裕樹(ブラジリア大学文学部科長)</p>		
14:10-14:30	総合討論		
14:30-14:40	ティータイム		
14:40-17:10	<p>OPI ファミリアライゼーション/OPI リフレッシュャワークショップ</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>驚声国際会議場(驚声ビル3階) 司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任) OPI ファミリアライゼーション 牧野 成一 (プリンストン大学名誉教授 OPI トレーナー)</p> </td> <td> <p>T311 司会者 陳 姿菁(開南大学副教授) OPI リフレッシュャワークショップ 三浦 謙一 (フランクリン&マーシャルカレッジ教授 OPI トレーナー)</p> </td> </tr> </table>	<p>驚声国際会議場(驚声ビル3階) 司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任) OPI ファミリアライゼーション 牧野 成一 (プリンストン大学名誉教授 OPI トレーナー)</p>	<p>T311 司会者 陳 姿菁(開南大学副教授) OPI リフレッシュャワークショップ 三浦 謙一 (フランクリン&マーシャルカレッジ教授 OPI トレーナー)</p>
<p>驚声国際会議場(驚声ビル3階) 司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任) OPI ファミリアライゼーション 牧野 成一 (プリンストン大学名誉教授 OPI トレーナー)</p>	<p>T311 司会者 陳 姿菁(開南大学副教授) OPI リフレッシュャワークショップ 三浦 謙一 (フランクリン&マーシャルカレッジ教授 OPI トレーナー)</p>		
17:10-17:20	ティータイム		
17:20-17:35	連絡事項、各研究会紹介等 (池畑 裕介 2017 年第 11 回 OPI 台湾大会事務局長)		
18:10-19:30	懇親会 (福格大飯店 新北市淡水區学府路 89 号 http://www.regalees-hotel.com.tw)		

二日目 2017年8月5日(土曜日)

セッションと 場所	研究発表 01 驚声国際会議 場	研究発表 02 T310	研究発表 03 T311	研究発表 04 T211	研究発表 05 T212	研究発表 06 T110
発表主題	対話活動	交流授業	会話分析	OPI 判定 実 施	縦断研究	日本語学
コメンテーター 兼司会者	許 均瑞 銘伝大学 副教授	施 信余 淡江大学 副教授	林 慧君 台湾大学 教授	堀越 和男 淡江大学 副教授	林 玉恵 銘伝大学 副教授	蘇 克保 東呉大学 副教授兼主任
09:00-09:30	橋尾 晋平 同志社大学 博士課程 初級日本語学習 者の発表する能 力 話し合う能 力の向上を目指 す日本語版「シ ンプル ディベ ート」の提案	工藤 節子 東海大学 助理教授 交流活動にお ける学習環境 デザインの要 件—あるプロ ジェクト型交 流を事例とし て—	陳 姿菁 開南大学 副教授 日本語学習者 における発話 分析—OPI 的 概念を取り入 れた授業を例 に—	小島 堅嗣 山中 峰央 後藤 歩 培材大学校助 教授 ハンバ ット大学校 OPI の複数テ スターによる 判定要因の分 析—判定者間 の信頼性向上 に向けての施 策—	世良 時子 成蹊大学 常勤講師 CLD 生徒で あった大学生 の日本語能力 評価に関する 考察—OPI に よる縦断デー タの分析から —	郭 獻尹 東呉大学 非常勤講師 台湾人学習者 の「そうです か」のイント ネーションの 習得について
09:30-10:00	中村 香苗 淡江大学 助理教授 日本語 L1-L2 話 者間のフィッ シュボウル式議 論 訓練 の 成 果 —L1 話者の調 整行動の変化を 中心に—	張 瑜珊 東海大学 助理教授 プロジェクト 型交流におけ る言語行動の —考察	黄 英哲 台中科技大学 副教授 上級段階で学 ぶ台湾人日本 語学習者の口 頭伝達力につ いて	大隅 紀子 堀 恵子 東京大学非常 勤講師・東洋 大学非常勤講 師 上 超級話者 の発話を引き 出すための談 話展開と効果 的な質問	久保田 佐和子 文藻外語大学 常勤講師 OPI を用いた 台湾人日本語 学習者の発話 縦断調査 —文藻外語大 学を例として —	劉 志偉 埼玉大学 准教授 撥音便の周辺 形式について —ラ行音の撥 音化に注目し て—
10:00-10:30	荒井 智子 銘伝大学 助理教授 学生の思考力の 拡散プロセスを 重視した作文の 授業—ピア レ スポンスの読み 手側に注目して —	落合 知春 山口 知才子 田代 奈緒子 梅村 弥生 イーストウェ スト日本語学 校専任講師・ 同非常勤講師 他者とのわか わりの中で学 ぶ教室活動— 環境問題を通 して—	萩原 孝恵 池谷 清美 山梨県立大学 准教授・チュ ラーロンコー ン大学助教授 フィラーとの 共起にみる舌 打ちと笑い —タイ人日本 語学習者の発 話を表象する 非言語行動の 特徴—	/	小林 安那 神谷 英里 釜山外国語大 学助教授・ハ ノイ国家大学 常勤講師 やりとり会話 授業における ピア フィー ドバックの利 点と問題点— 学生へのアン ケートとイン タビュー結果	齊藤 眞理子 三国 純子 文化学園大学 教授 意見述べに見 られる表現— 「じゃない か」を中心に —

					から—	
10:30-10:40	ティータイム					
セッションと 場所	研究発表 07 驚声国際会議 場	研究発表 08 T310	研究発表 09 T311	研究発表 10 T211	研究発表 11 T212	研究発表 12 T110
発表主題	身体表現活動	評価	教室活動	スキル判定と 教育	オンライン教 育	日本語学
コメンテーター 兼司会者	董 莊敬 文藻外語大学 副教授	李 偉煌 靜宜大学副教 授兼主任	范 淑文 台湾大学教授	林 立萍 台湾大学 教授	邱 若山 靜宜大学 副教授	黄 英哲 台中科技大学 副教授
10:40-11:10	清水 泰生 同志社大学 嘱託講師 身体活動とプロ フィシェンシー について—肉体 が変われば日本 語 教授法も変 わる—	賴 錦雀 東吳大学 教授 日本語学習者 に求められる 異文化交流能 力の育成と測 定—台湾人の 場合—	古田 梨乃 山田 航司 開南大学専任 講師・同交換 研究員 日本語会話ク ラスにおける 効果的な教室 活動—文法を 使っていくに 話させるか—	上田 早苗 香港中文大学 高級講師 香港の上級日 本語学習者の 書く力を測る	落合 由治 淡江大学 教授 表現史から見 た日本語 MOOCS の位 置付け	蔡 季汝 樹人医護管理 専科学校 助理教授 日本語学習者 の可能表現に おける理解状 況—中国語を 母語とする場 合—
11:10-11:40	堀越 和男 淡江大学 副教授 日台遠隔協働授 業の活動とその 実態—「協働創 作演劇」におけ る学びについて —	向井 裕樹 ブラジリア大 学准教授 ブラジルの高 等教育におけ る日本語教育 —口頭運用に 関する教室活 動と評価—	王 嘉臨 淡江大学 助理教授 文学授業を活 性化する言語 活動の構築— 淡江大学を事 例として—	林 雅芬 何 月華 台中科技大学 助理教授・淡 江大学兼任講 師 大学通訳教材 の開発実践に ついて	曾 秋桂 淡江大学 教授 台 湾 初 MOOCs「非常 村上春樹」を 実践例として	堀内 仁 国際教養大学 准教授 中国語母語話 者の日本語丁 寧体動詞の発 達—コーパス に基づく分析 —
11:40-12:10	張 桂娥 東吳大学 副教授 アクティブ ラ ーニング型授業 における多重評 価システムの設 計をめぐる— 台湾東吳大学日 本語学科 4 年次 選択科目「翻訳 実務」の実践を 例に—	関口 要 実践大学 助理教授 台湾の大学の 日本語中上級 会話クラスに おける定期試 験の評価方法	吳 翠華 林 淑璋 元智大学副教 授・同助理教 授) 児童文学指導 の新しい試み —子供の日本 文化体験キャ ンプを採り入 れて—		宇田 左近 ビジネス ブ レークスルー 大学副学長 オンラインに よる大学教育 のフロンティ ア	ラッタナボン ピンヨー プラッチャヤ ポーン 大阪大学博士 課程後期 「ダロウネ」 をめぐる— タイ語と対照 させて—
12:10—13:10	昼食(驚声国際会議場内)とポスター発表(驚声国際会議場 2 階にて)が同時進行					

12:10-13:10	<p>ポスター発表</p> <p>① 池畑 裕介（中國文化大学推廣教育部教学主任） 絵本セラピーを使った中上級会話の実践—癒しの教室を目指して—</p> <p>② 安高 紀子・小森 和子（明治大学、東京外国語大学講師 明治大学准教授） 「話す」と「書く」という産出方法の違いが談話構造に与える影響 —日本語学習者による意見を述べる談話の比較—</p> <p>③ 内田 康（淡江大学助理教授） 百人一首を用いた日本語-文学-文化体験学習連結の試み —淡江大学における事例の実践報告—</p> <p>④ カンジャマーボンクン サティダー（大阪大学） 会話における繰り返し表現 —「驚きの表示」と「抵抗感」との関係を中心に—</p> <p>⑤ 芝田 沙代子（東呉大学博士課程） アクティブラーニングを目指したJFL日本語教育の可能性 —インターネットのチャットを通して—</p> <p>⑥ 蘇 彦如（中國文化大学推廣教育部兼任講師） モチベーション研究における動機付け —台湾の高校における第二言語教育を中心として—</p> <p>⑦ 陳 文瑤（大葉大学副教授） 『できる日本語』で話せる力を育成する試み</p> <p>⑧ 廖 育卿（東呉大学博士課程） ポर्टフォリオを利用した日本語指導法の一試み —自律学習を目指して—</p>
<p>パネル2 「つながり」重視の日本語学習パラダイムシフト 司会者:孫 寅華(淡江大学副教授)</p>	
13:10-14:10	<p>パネルディスカッション1 講演者:陳 淑娟（東呉大学教授） テーマ「つながり」重視の日本語学習パラダイムシフト—台湾のJ-GAPの成果とこれから—</p> <p>パネルディスカッション2 講演者:嶋田 和子（アクラス日本語教育研究所代表理事） テーマ「つながり」重視の日本語学習パラダイムシフト—日本の現状とこれから—</p> <p>パネルディスカッション3 講演者:三浦 謙一（フランクリン&マーシャルカレッジ教授） テーマ「つながり」重視の日本語学習パラダイムシフト—米国の日本語教育の今とこれから—</p>
14:10-14:30	Q&A
14:30-14:45	ティータイム
14:45-15:45	<p>司会者:羅 曉勤 (銘伝大学副教授)</p> <p>OPIデモンストレーション 鎌田 修 (南山大学教授)</p>
15:45-16:00	ティータイム
16:00-17:20	<p>パネルディスカッション 2017年第11回OPI大会発表成果と展望——成果共有を目指して</p> <p>司会者兼パネリスト 頼 錦雀(東呉大学教授)</p> <p>パネリスト(驚声国際会議場会場担当) 中村 香苗(淡江大学助理教授)</p> <p>パネリスト(T310 会場担当) 施 信余(淡江大学副教授)</p> <p>パネリスト(T311 会場担当) 陳 姿菁(開南大学副教授)</p> <p>パネリスト(T211 会場担当) 羅 曉勤(銘伝大学副教授)</p> <p>パネリスト(T212 会場担当) 落合 由治(淡江大学教授)</p>

	パネリスト(T110 会場担当) 池畑 裕介(中国文化大学推廣部主任) 総合討論(20分)
17:20-17:30	閉会式 閉会の辞 曾 秋桂(淡江大学教授兼学科主任 村上春樹研究センター長 2017年第11次 OPI 国際シンポジウム台湾大会実行委員長)
17:30-18:30	晚餐交流会 (驚声国際会議場内)
主催	:淡江大学日本語文学科 村上春樹研究センター
共催	:科技部 中国文化大学推廣教育部
協賛	:日本語プロフィシエンシー研究会 日本語 OPI 研究会 九州 OPI 研究会 浜松 OPI 研究会 韓国 OPI 研究会 ACTFL 日本比較文化学会 台湾日本語教育学会 台湾日本語文学会
後援	:日本台湾交流協会

説明 (1)8月4日午前の部分は、中国語と日本語で同時通訳を行います。翻訳機が借りられます。ただし、使用料金は、一台につき、250 圓台湾ドルです。必要なお方は、お受付までお申し込みください。

(2)機械を借りる時、使用料金をお支払いいただくと同時に、担保として身分証明書などを一緒にお預かりします。ご返却の際、お返しします。

(3)機械を借りる時、身分証明書などをお預けいただけない場合、担保金千圓台湾ドルをお預かりします。ご返却の際、250 圓の使用料金を引いて、750 圓台湾ドルをお返しします。

(4)8月4日午後の部分は「OPI ファミリアライゼーション」と「OPI リフレッシュャーワークショップ」の2部に分かれています。「OPI リフレッシュャーワークショップ」はテスター向けのプログラムです。テスターでない方は「OPI ファミリアライゼーション」にご参加ください。